

障害に関する施策検討のためのアンケートの結果について

1 調査概要

(1) 調査目的

重度障害者（児）の生活実態及び要望等を把握し、「第8期台東区障害福祉計画」策定のための基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査対象

- ① 障害者：重症心身障害者、強度行動障害者
- ② 障害児：重症心身障害児、医療的ケア児、加算児

(3) 調査期間

- ① 実態調査同封分：令和7年8月27日～9月30日
- ② 個別調査分：令和7年9月26日～10月31日

(4) 調査方法

調査票を郵送し、郵送またはインターネットにより回答いただいた。

(5) 回収状況

調査対象	対象	対象者数（人）	回収数（人）	回収率（％）
障害者	① 重症心身障害者	161	99	61.5
	② 強度行動障害者			
障害児	① 重症心身障害児	75	43	57.3
	② 医療的ケア児			
	③ 加算児			
合計		236	142	60.2

【回収数の障害別内訳】

〔障害者〕

身体障害： 37人
 知的障害： 74人
 発達障害： 12人
 精神障害： 4人
 高次脳機能障害： 2人
 難病（特定疾病）： 15人

合計： 144人（※）

〔障害児〕

身体障害： 42人
 知的障害： 35人
 発達障害： 24人
 精神障害： 2人
 高次脳機能障害： 2人
 難病（特定疾病）： 10人

合計： 115人（※）

（※）複数回答が可能なため、合計数は回収数を上回っている。

2 調査結果

別紙のとおり

3 調査内容まとめ

(1) 障害者調査

① 将来望む暮らし方

グループホーム等の共同生活住居が最も多く、入所施設と合わせると約6割となる。全体の実態調査ではグループホーム等が4.8%、入所施設が2.5%である。

② 今後充実を希望するサービス

短期入所・緊急一時保護が最も多く、次いで外出手段の支援、3番目に生活介護、グループホームが多い。

全体の実態調査では、「特にない」が最も多く、次いで外出手段への支援となっており、短期入所・緊急一時保護は11番目である。

重度の障害がある方ほど、施設の整備、一時的な受け入れ先のニーズが高い。

(2) 障害児調査

① 将来望む暮らし方

現在の家族が最も多く、次いで入所施設、グループホームと続いており、入所施設とグループホーム等を合わせると4割以上となっている。

全体の実態調査では、現在の家族、一人暮らし、新しい家族の順に高い。

② 今後充実を希望するサービス

短期入所・緊急一時保護が最も多く、次いで障害児通所支援、3番目に通所先の開所時間の延長となっている。

全体の実態調査では、障害児通所支援が最も多く、次いで通所先の開所時間の延長、就職するための支援と続いている。

将来の暮らしについては、重度の障害がある方ほど、施設等への入所を望む声がある。通所支援については、全体調査と同様に長時間の利用希望が多く、保護者の就労状況に伴うニーズが高まっている。

4 今後の対応

第8期台東区障害福祉計画策定に合わせ、反映させていく。